

## 宝殿

宝殿は、僧侶が遺物と貴重な儀式用具を保存している場所である。平安時代後期に建てられた東寺で最も古い現存する建物である。建物の一部分は更に古いものもある。堀と重い扉で保護された宝殿は、忍者のような技術を有していた有名な伝説の強盗、石川五右衛門（1558-1594）の侵入をも妨げたと言われている。

西側にかかる橋の近くの堀の中央の石には小さな蛙が彫られている。これは朝廷貴族・能書家であった小野道風（894-966）の有名な逸話を暗示している。雨の中を歩いているとき、道風は蛙が柳に飛びつこうとしているのを見た。蛙は何度も失敗したが、最終的にはその枝をつかんだ。道風はこれを根気強さの重要性を示すサインであると受け取った。この話は伝統的な「花札」にも描かれており、ある歌舞伎の劇中の一場面にもインスピレーションを与えた。